

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「つながり」「いきいき」「豊かな学び」を標語として、生徒一人ひとりが仲間とつながり、元気に体を育み、主体的な選択をとおして未来を描く教育の実現をめざす。そのために、以下の点を重点目標として学校経営に取り組む。

1. 「つながり」：生徒と生徒がつながり、保護者・地域諸機関とつながる学校

2. 「いきいき」：安全・安心な場を提供できる学校

3. 「豊かな学び」：生徒のニーズに応じながら、豊かな学習を提供できる学校

2 中期的目標

1. 生徒一人ひとりが良好な対人関係を育み、自立と社会参加に向けた“役割”を果たす態度を養う。そのために、高等部での実習等による社会参加につながる機会（チャンス）の提供及び、行事や日々の教育活動と卒業後の関係機関との連携、地域の学校との交流活動を進める。

（1）進路に関する教育

ア 高等部卒業後の進路に向けて実習先を確保し、巡回指導を充実させる。

＊H30 年度は、四條畷市・大東市・東大阪市の実習先開拓のための福祉事業所・企業訪問を引き続き行う。とくに、福祉事業所への巡回及び開拓訪問に力を入れる。

イ 中学部、高等部の生徒への社会参加へ向けてのキャリア教育を継続させる。

＊中学部では、中学部 3 年生へのクリーンコースを含む職業授業への見学（体験）、働く場への見学等を含めた全学年の進路学習を充実させる。

＊高等部では、個々の実態に応じながら、地域の事業所への実習を継続的に実施する。

ウ 高等部では、卒業後を意識した、卒業生の講演やビデオを活用しての進路学習を実施する。さらに、政治的教養を育む教育を系統的に実施する。

（2）学校行事の充実

ア 体育祭、学習発表会において、役割を果たす成功体験だけでなく生徒間の協力体験を引き出せる支援・指導を継続させ、充実させる。

（3）インクルーシブ教育の推進に向けた交流及び共同学習

ア 交流学習を通して地域の生徒との交流を深める。

イ 希望する中学部生徒に対して居住地校交流を開始する。

2. 生徒一人ひとりの「こころとからだ」の健康保持を実施し、元気な心と身体を育む。そのために、安全・安心な場の構築と人権・健康支援を推進する。

（1）薬剤預かりのマニュアル化と薬剤研修の実施

ア 災害時の薬剤預かりのマニュアル化と実施。

イ 薬剤に関する研修を実施する。

（2）食物アレルギーへの対応

ア 食物アレルギー対応研修を実施する。

（3）心と身体の学習（性に関する指導）の充実

ア 中学部から高等部につながる性に関する指導を計画し、実施する（H29 から継続）。

（4）生徒の人権を大切にする教育

ア 教職員対象の人権研修を複数回実施する。

（5）防災

ア 大災害時のマニュアルを教職員一人ひとりが確認する。

イ 保護者向けの大災害時の対応プリントを作成し、保護者との連携を確認する。

3. 生徒一人ひとりに個々の教育的ニーズを大切にしながら、自立と社会参加へ向けた知識・技能の獲得とともに、自己肯定感・達成感の向上を支援する。

（1）授業力の向上及び知的障がい教育における専門性の向上

ア 経験の少ない教員の授業力向上を図る。

＊初任者の研究授業による研究授業を実施する。

イ 全教職員が年 1 回の授業見学を行う。平成 30 年度は、29 年度に比べて見学期間を増やす。

＊できる限り他学年・他学部の授業見学を行う。

（2）教育施設設備及び I C T 教育環境の充実

ア 教育施設設備の充実を継続させる。

イ I C T 機器を使用した教育と、ICT に関する研修の実施。

（3）コーディネーターを中心とする、チームによる校内支援及び地域支援（センター的機能）の充実

ア 校内支援

イ 地域支援

（4）自立活動の充実

ア 自立活動に関する専門性を向上させる。

イ 自立活動・障がい理解に関する校内研修を実施する。

ウ 自立活動の視点を取り入れた系統的な授業を実施する。

（5）広報・情報発信

ア ホームページ等による学校情報の発信を継続し、充実させる。

（6）適正な勤務時間による教職員の健康維持（働き方改革）

ア 教職員の長時間労働を減少させることで、生徒へ豊かな教育を提供する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕 | 学校運営協議会からの意見 |
|                           |              |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期<br>目標              | 今年度の重点目標                                                                        | 具体的な取組計画・内容                                                                                                                                           | 評価指標                                                                                                                                                                               | 自己評価 |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 1<br>つ<br>な<br>が<br>り | (1) 進路・政治的教養を育む教育<br>ア 福祉事業所の実習先の確保および巡回指導の充実<br>イ 中学部、高等部生徒の社会参加へ向けてのキャリア教育の充実 | (1)<br>ア 進路部を中心とする高等部教員が、主に3市の福祉事業所等の実習先開拓を行うとともに、福祉事業所への巡回指導を充実させる。<br>イ・中学部生徒への、高等部の授業及び働く場への見学や体験の実施。<br>・高等部生徒への、ビジネスマナー研修の継続と、地域の事業所への実習の継続及び充実。 | (1)<br>ア 実習先開拓および、充実した巡回指導を行えたか。(福祉事業所巡回訪問50回・福祉事業所開拓訪問20ヵ所以上)<br>イ・中学部の高等部見学及び、働く場所への見学等を含めた中学部全体での進路学習が充実できたか。(生徒向け自己診断肯定度60%)<br>・高等部生徒に対して、社会人になるための意識を向上させたか。(生徒向け自己診断肯定度70%) |      |
|                       | ウ 高等部生徒への社会参加意識の向上と、政治的教養を育む教育の実施                                               | ウ 校内外の体験実習や企業見学、卒業生による講演会の受講等を通して、高等部生徒の社会参加への意識を向上させる。<br>高等部生徒に、政治的教養を育む教育を実施する。                                                                    | ウ 就学部、高等部の生徒の社会参加、高等部生徒の主権者意識を向上させたか。(生徒向け自己診断肯定度70%)                                                                                                                              |      |
|                       | (2) 行事の充実<br>ア 校外学習・泊行事の充実                                                      | (2)<br>ア 校外学習・泊行事を通して、生徒の主体的活動と成功体験を培う。                                                                                                               | (2) ア 行事を通じて、生徒の自己肯定感を向上させたか。(生徒向け自己診断肯定度80%)                                                                                                                                      |      |
|                       | (3) 交流学习<br>ア 他校種との学校間交流の実施                                                     | (3)<br>ア 生徒のニーズを大切にしながら、各学部で、年1回以上、他校種との学校間交流を実施し交流を深める。                                                                                              | (3)<br>ア 地域の中学校や高等学校との交流を通して、生徒の自己肯定感を高めたか。(生徒向け学校教育自己診断肯定度70%)                                                                                                                    |      |
|                       | イ 中学部生徒の居住地校交流                                                                  | イ 希望する中学部生徒に対し、居住地校交流を進める。                                                                                                                            | イ 居住地校交流を希望した生徒に対し、ニーズを満たす交流が行えたか。(交流対象生徒への交流事後のアンケートによる)                                                                                                                          |      |
|                       |                                                                                 |                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                    |      |
|                       |                                                                                 |                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                    |      |
| 2<br>い<br>き<br>い<br>き | (1) 薬剤に関するマニュアル化と研修<br>ア 薬剤預かりのマニュアル化と実施<br>イ 薬剤に関する研修                          | (1)<br>ア 薬剤預かりに関するマニュアル作りを実施する。<br>イ 薬剤に関する研修を実施する。                                                                                                   | (1)<br>ア マニュアルを作成し実施できたか。(実績による)<br>イ 薬剤に関する研修を実施できたか。(実績による)                                                                                                                      |      |
|                       | (2) 食物アレルギーへの対応<br>ア 食物アレルギー対応研修の実施                                             | (2)<br>ア 教職員に対して食物アレルギー対応研修を実施する。                                                                                                                     | (2)<br>ア アレルギーに対する危機意識を高められたか。(自己診断肯定度80%)                                                                                                                                         |      |
|                       | (3) 心と身体の学習(性に関する指導)の充実<br>ア 系統的な心と身体の学習計画                                      | (3)<br>ア 中学部から高等部につながる、系統立てた学習表を活用して(全学年と実態を心と身体の学習を実施し、全学年での情報共有を図る。                                                                                 | (3)<br>ア 日頃から性教育の視点からの生徒指導を心掛け、充実した心とからだの学習を実施できたか。(教員向け自己診断肯定度80%)                                                                                                                |      |
|                       | (4) 生徒の人権を大切にする教育<br>ア 教職員対象の人権研修の実施                                            | (4)<br>ア 年に2回、教職員対象の人権研修を実施する。                                                                                                                        | (4) ア 2回の研修後、向上した教職員の人権意識が続いているか。(教員向け自己診断アンケート肯定度80%)                                                                                                                             |      |
|                       | (5) 防災<br>ア 大災害を想定した避難訓練をと<br>おした、各教職員の役割の確認                                    | (5)<br>ア 大災害時のマニュアルに沿った、教職員の動きを確認するための避難訓練を実施する。                                                                                                      | (5)<br>ア 大災害を想定した避難訓練により教職員一人ひとりの動きが確認できたか。(自己診断肯定度80%)                                                                                                                            |      |
|                       | イ 保護者向け、大災害時対応プリントの配付                                                           | イ 保護者向け大災害時対応プリントを配付し、保護者との連携を確認する。                                                                                                                   | イ 保護者向け大災害時プリントを作成し、保護者に提示できたか。(実績と保護者向け学校教育自己診断肯定度80%)                                                                                                                            |      |
|                       |                                                                                 |                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                    |      |

府立交野支援学校四條畷校

|            |                                                                          |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                   |  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 3<br>豊かな学び | (1) 授業力及び専門性の向上<br>ア 初任者の教員に対する研究授業の充実<br>イ 全教職員による授業見学の実施               | (1)<br>ア 初任の教諭は年2回研究授業を実施するとともに、先輩教員の授業見学を年3回実施する。<br>イ 全教職員が他の教職員（とくに他学部）の授業見学を年に1回以上行う。<br>H30年度は、見学期間をH29年度より長期間設定する。                                    | (1)<br>ア 初任者が2回の研究授業をとおして、授業力を向上させたか。（初任者への1回目と2回目の事後アンケートの向上度80%）<br>イ 昨年度に比べて、授業見学者を増加させたか。（教職員の30%をめざす）                                                        |  |
|            | (2) 教育環境の整備・充実<br>ア 教育環境の整備の充実<br><br>イ ICT または視覚支援を活用した教育の充実            | (2)<br>ア 教育施設設備を充実させる。<br><br>イ ・ICTまたは視覚支援を活用した授業を実施する。<br>・ICT教育に関する研修を継続・発展させる。                                                                          | (2)<br>ア 教育環境を少しでも向上できたか。<br><br>（保護者向け学校教育自己診断肯定度50%）<br>イ ICTまたは視覚支援を活用した授業を実施し、活用は有効であるか。（教職員向け学校教育自己診断アンケート80%）<br>2回以上、ICTに関する研修を実施したか。（実績）                  |  |
|            | (3) コーディネーターを中心とする校内支援及び地域支援の充実<br>ア 校内支援<br>イ 地域支援                      | (3)<br>ア ・地域のデイサービス等の事業所、見守り等に関する福祉機関からの依頼にはすべて応じ、教職員への情報提供を行う。<br>イ 地域からの巡回相談や講師派遣の依頼にはすべて応じる。また、通学区の市と連携・協力し、研修会を支援する。                                    | (3)<br>ア ・依頼にすべて応じ、情報提供やケース会議を実施し、教職員へ情報発信できたか。（教職員向け自己診断アンケート80%）<br>イ 地域からの巡回相談や講師依頼の派遣にすべて応じたか。また、市との連携・協力のもと、研修会を実施もしくは検討を進めたか。（教職員向け自己診断アンケート80%）            |  |
|            | (4) 自立活動の充実<br>ア 自立活動の専門性向上の取り組み<br><br>イ 自立活動等に関する校内研修<br>ウ 自立活動の系統的な授業 | (4)<br>ア 初任2～3年目の教員は、自立活動をテーマとした研究授業を実施する。<br>特別支援教育に関わる研修や公開授業等に参加し、成果を校内へ還元する。（新版K式等）<br>イ 自立活動・障がい理解に関する専門性向上のための校内研修を実施する。<br>ウ 自立活動の視点を入れた系統的な授業を実施する。 | (4)<br>ア 3名以上の初任2～3年目の研究授業を実施できたか。（実績）<br>校外の研修等に参加し、成果を校内に還元できたか。（伝達研修会事後アンケート肯定度80%）<br>イ 自立活動・障がい理解に関する校内研修を実施できたか。（4回以上）<br>ウ 系統的な授業を実施できたか。（教職員向け自己診断肯定度80%） |  |
|            | (5) 広報・情報発信<br>ア ホームページ等による学校情報の発信                                       | (5)<br>ア ホームページ等で、行事や注意喚起等の学校情報を地域や保護者に発信する。                                                                                                                | (5)<br>ア ホームページ等で学校情報を地域や保護者に、充実した内容で発信できたか。（閲覧した保護者向け学校教育自己診断肯定度70%）                                                                                             |  |
|            | (6) 働き方改革<br>ア 教職員の長時間労働の防止による、豊かな教育の生徒への提供                              | (6)<br>ア 教職員の長時間労働減少のために金曜日を一斉退勤日とする。                                                                                                                       | (6)<br>ア 月80時間超えの超過勤務者を一人も出さなかったか。（実績による）                                                                                                                         |  |
|            |                                                                          |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                   |  |
|            |                                                                          |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                   |  |
|            |                                                                          |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                   |  |
|            |                                                                          |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                   |  |